

* 研究授業からの学び *

2021. 1. 20
No. 6
文責 堀地

令和3年 1月14日 (木)

第4学年 国語科

新玉 恵子 教諭

単元名 日本語のみだれ、どう思う?」ニュース評論会をひらこう! (全10時間)

教材名 「数え方を生みだそう」(東京書籍4年)

<育てたい資質・能力>

- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる力
【思考力、判断力、表現力等 C読むこと(1)オ】
- 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解する力
【知識及び技能(2)ア】
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度
【学びに向かう力、人間性等】

<この単元で働かせたい見方・考え方>

- ・段落の役割、文章構成に着目し、事例や考えではない部分を見つながら、筆者の伝えたいことを読み取る。
- ・筆者の考えから、自分の考えをもつ。

本時の目標

接続語や指示語などに着目し、文章構成を捉え、筆者の考えが書かれているところの大体を見つけることができる。

本時の評価規準

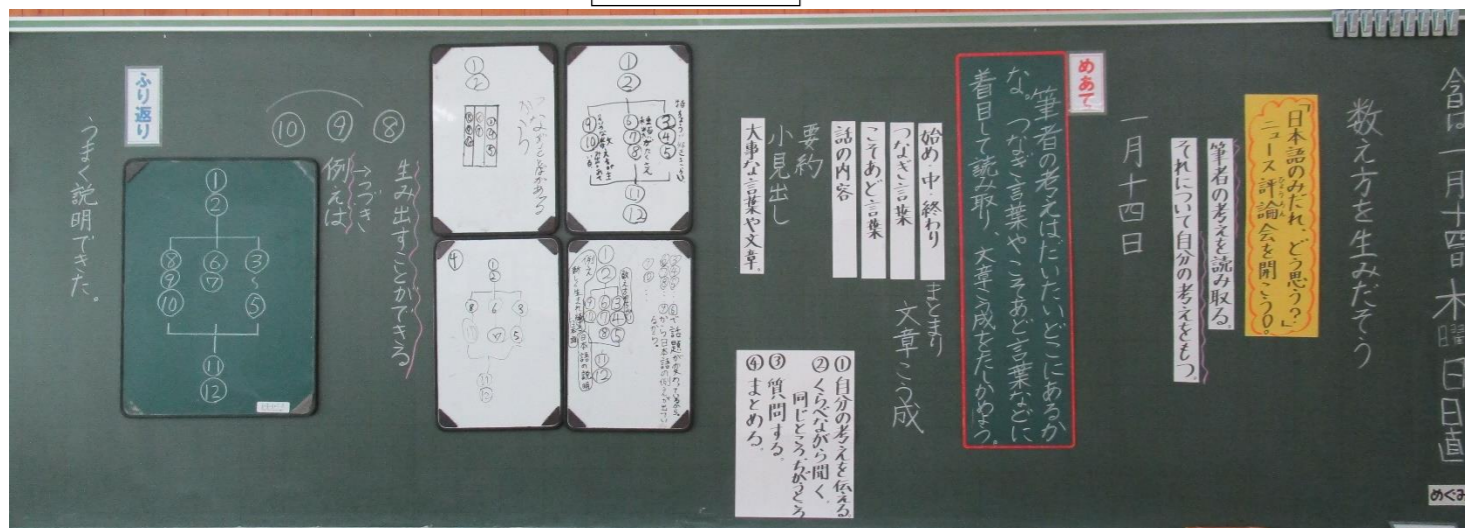
- ◆【知識・技能】
- ノート・発言
- ・文章構成図をつくり、それについて話し合っているようすの確認。



本時の授業風景



本時の板書



研究協議より (抜粋)

授業者より

- ・時間配分がうまくいかず、後半がつまってしまった。
- ・挙手をさせることが少なかった。
- ・机間指導の中での見取りが難しかった。

参観者より

- 子どもたちが、言葉にかえりながら自分たちなりに一生懸命考えていた。
- 終盤の全体共有のときの、違う意見が出てきたときに、わくわく感がでてきていた。
- ノートをみて、既習のことを確認してヒントにしようとしている児童がいた。
- 話し合いの手順をつかませてから話し合いに入っていて、見通しをもった活動ができていた。
- 前半の指示をするときに、繰り返し確認しているところがあった。
- めあてまでを5分以内ほどにしたり、グループでの話し合いをもう少し早めに切り上げたりして後半の全体共有に時間をかけたかった。
- 既習事項の確認は、もっと簡単なおさえでも子どもたちは活動できていたのではないかと。
- 単元の中で、筆者の考えを捉えるとき文章構成に着目するところが多いので、文末表現なども参考にさせるといい。

授業者のリフレクションより

- ・子どもたちがめあてに向かって自ら話し合う活動に取り組むことが大切だと感じた。その時間を確保できるように時間配分を考え、ポイントをしぼる必要があった。
- ・文章構成を考えるための着目点を確認したが、読解に弱さが見られる児童にはより細かな手立てが必要だ。
- ・話し合い活動では、話し合いの観点を児童と確認し、目的を明確にして活動に入ることによって、意見を交流しやすく内容も深まる。

☆研究授業から見えてきた課題☆

*タイムマネジメント

- ・導入を5分以内にする
- ・練り合いに時間をとる



～1月13日 小笠原先生にきていただきました～

【見えてきた課題】 **※まじめだが、熱中していない!!**

- ・読むときの声が出ていない、声の出し方を指導する。(姿勢、声の高さ、声を出す機会をつくる)
- ・文章を推敲させるときには、友達同士で質問させる。
- ・モデルを出して、考えの方向性を示す。
- ・文章の構成を考えるときにも、子どもの中に経験や思いなど、具体をしっかりと持たせる。

「授業45分の前と後で、何ができるようになったか?」45分でつきたい力を明確に!

～来年度に向けて～

- 相手・目的意識の継続
- 学習に必然性を持たせる
- 言葉にこだわらせるための手立て
- 発問の厳選
- 対話の充実

子どもたちが
熱中するように!